



2023年 コープみえ
サステナビリティレポート

発行月：2023年6月

お問い合わせ先

〒514-0009

三重県津市羽所町379番地

生活協同組合コープみえ 機関運営部

TEL 059-271-8507 FAX 059-222-5025

ホームページ <https://www.coop-mie.jp>



つながりあう安心、笑顔が輝く 暮らし

コープみえ サステナビリティレポート

2023

コープみえの事業、社会、環境活動の報告書です。
コープみえ SDGs 行動宣言に沿って
2022年度の活動をまとめました。



コープみえキャラクター
みえっぴい

編集方針

コープみえの事業・組織、組合員活動、
社会貢献活動・環境の取り組みについて報
告しています。

報告対象期間は2022年3月21日から
2023年3月20日までで、コープみえの
活動のほか、関連する東海コープ事業連
合の活動、情報を含んでいます。



資源や環境に配慮して、エコインキと再生紙を使用しています。
このサステナビリティレポートは、カーボンオフセットされています。

サステナビリティレポートの発行にあたって

平素より格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

関係者のみなさまにこのサステナビリティレポートを通して、コープみえの1年間の社会的な活動についてご報告いたします。

コープみえは本年3月21日をもち、設立20周年を迎えることができました。1970～80年代にかけ、物価高騰や環境破壊などの社会問題への不安から三重県各地で生まれた4つの生協が、未来に向けて大きな協同の輪をひろげ、一人ひとりの組合員の声を実現し、豊かなくらしと社会を築くことをめざして合併してから20年、合併当時約9万5千人であった組合員は20万人を超え、地域社会にも認められる存在になりつつあります。

昨年2月にはじまったロシアのウクライナ侵攻により、世界の平和が脅かされてから1年以上が経過しました。国際法に違反し人道的に容認できない軍事侵攻について、コープみえとして昨年3月に抗議文をロシアに提出し、早期の停戦を呼びかけました。今、この軍事侵攻に伴う著しい物価高騰によって、私たちのくらしは大きな影響を受けています。食品、日用品、水光熱費など、生活していく上で必要なものが値上がりし、家計を圧迫し続けています。豊かなくらしは平和

であってこそということを改めて認識した1年でした。コープみえは、引き続き平和とより良いくらしを、みなさまとともに追求していきます。

また、私たちコープみえは、地域の行政や諸団体との連携を深め、さまざまな問題の解決に向けて取り組みをすすめてきました。桑名福祉ヴィレッジの敷地内にオープンした「らいうショップ」は、地域共生社会の推進に向けた新たな協同の輪をひろげる活動として全国的にも注目を集めています。

この3年間、コロナ禍の影響により国内外で多くの分断が発生し、社会的な課題が浮き彫りになってきました。このことを通じて、改めてつながりの大切さを実感することができました。新型コロナウイルス感染症の5類への感染法上の移行に伴い、私たちのくらしも大きく変わってくるのが予想されます。これまで控えてきた対面での交流に加え、コロナ禍で培ったWebでの交流のノウハウを用い、より広範な組合員の参加を呼びかけ、組合員、生産者、地域とのつながりを更に綿密にしていきます。

コープみえは「つながりあう安心、笑顔が輝くくらし」の基本理念のもと、平和な社会を未来に引き継いでいくため、くらしの願いに応える取り組みを一層強めていく所存です。引き続きみなさまのご指導ご援助をどうぞよろしくお願いいたします。

2023年6月
生活協同組合コープみえ
理事長 鈴木 稔彦



コープみえの事業



● 宅配事業

毎週1回、決まった曜日に指定された場所に商品をお届けしています。商品の受取方法は、くらしに合わせて、班購入、個人宅配、ステーション購入から選んでいただけます。商品のおもな仕入先は東海の3生協（コープぎふ、コープあいち、コープみえ）でつくる東海コープ事業連合です。



● 店舗事業

まつさか店（松阪市）とみやがわ店（伊勢市）の2店舗があります。組合員にとって必要なお店、私のお店と思ってもらえる店づくりをすすめています。

● 福祉事業

「安心」「笑顔」「健やか」「想い」「共有」を大切に、利用者一人ひとりに合った自立をめざしたサービス提供を心がけ、福祉サービスをすすめています。



● くらしの事業

くらしに役立つ、より豊かにするために、夕食宅配、葬祭、宅配灯油、共済、すまいの事業、その他の斡旋サービス事業などをすすめています。

■ 組織の概況 (2023年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープみえ
設立	2003年3月21日
本部所在地	三重県津市羽所町379番地 TEL 059-271-8500 (代表) https://www.coop-mie.jp
事業エリア	三重県一円
組合員数	207,588人
出資金(1口千円)	48億1,433万円
加入率	27.6%
役員	理事22人 監事5人
職員数(出向者含む)	ゼネラル(正規職員)272人 ジョブ(パート職員)258人
子会社 スマイルサービスみえ	事業高 2億9,730万円(1月末現在)

■ 経営状況 2022年3月21日～2023年3月20日

総事業高	236億8,580万円
供給高合計	230億5,165万円
福祉事業収入	3,963万円
その他事業収入	5億9,451万円
事業総剰余金	54億3,403万円
事業経費	47億642万円
事業剰余金	7億2,760万円
経常剰余金	8億7,105万円

■ 事業所・事業内容

宅配事業 9センター	桑名、四日市、鈴鹿、津宅配、津南、松阪、伊勢、紀北、伊賀
ステーション	全県34箇所
店舗事業2店舗	まつさか店(松阪市) みやがわ店(伊勢市)
福祉事業1事業所	福祉サービスセンター松阪(松阪市) 事業内容: 通所介護事業、 居宅介護支援事業、 訪問介護事業
くらしの事業	共済事業(受託)、夕食宅配事業、 斡旋サービス事業

■ 関連組織紹介

生活協同組合連合会 東海コープ事業連合	東海3生協(コープぎふ、コープあいち、コープみえ)が出資し、会員単協の商品、物流、情報システム等を合同し、事業を推進しています。
株式会社 コープサービス東海	東海3生協、東海コープ事業連合が出資し、損害保険代理事業、生命保険募集に関わる業務を行っています。
株式会社 スマイルサービスみえ	コープみえの子会社として、宅配や夕食宅配の配送業務、施設・設備の保守・管理・清掃業務、くらしの便利屋等を行っています。

2030年 理念 ・ ビジョン

理念

つながりあう安心、 笑顔が輝く暮らし

～ 平和な社会を未来へ引き継いでいきます ～

コープみえは、2030年ビジョンの取り組みを通してSDGsのゴールに貢献します。
「2030年ビジョン」と「SDGs」の基本的な考え方やめざす方向は同じです。コープみえは、ビジョンの実現に向けた事業と活動を通して、SDGsの達成に貢献できるようにします。
ビジョンに掲げられているキーワード「地域」「食と健康」「人」を、コープみえのSDGs行動宣言で掲げた7つの取り組みとつなげて考えることで、コープみえの取り組みとSDGsのそれぞれの目標とのつながりを分かりやすく伝え、ひろげていきます。
私たちがめざすビジョンを、SDGsに沿ってさらにすすめます。

ビジョン 1

安心して暮らし続けられる地域社会づくりを すすめます

目
標

- ①地元メーカー、生産者の商品を通して産業と地域の活性化をはかります
- ②すべての地域で組合員が事業と活動に参加しています
- ③各協同組合の強みを出し合って、SDGsの実現をめざします
- ④世界平和の実現に貢献します
- ⑤事業と活動を通して、脱炭素社会への取り組みをすすめます



ビジョン 2

よりよい「食と健康」のある暮らしを めざします

目
標

- ①安全・安心なものを手に取りやすい価格でお届けします
- ②食品ロスを減らすしくみをつくります
- ③子どもたちへ安定した食事と健康を提供します
- ④全ての人々が健康的な生活を送るための情報を提供します



ビジョン 3

すべての人への配慮や思いやりを 大切にします

目
標

- ①だれもが利用しやすいしくみをつくります
- ②ジェンダー平等・障がいのある人をはじめ、あらゆる人が活躍できる場所をつくります
- ③地域のつながりをつくることで、地域の困窮への助けあいの輪をひろげていきます
- ④人と地域に役立つような人（職員）づくりをすすめます
- ⑤気持ちの良いあいさつを心がけ「まち」の治安に貢献します
- ⑥育児、介護で悩んでいる人へのサポートをすすめます



「コープみえSDGs行動宣言」

～SDGsを実現するための7つの取り組み～

SDGs (持続可能な開発目標) を組織と地域の中にひろげあい推進します。

コープみえでは、2019年第17回通常総代会で「コープみえSDGs行動宣言」を採択しました。
 「つながりあう安心、笑顔が輝く くらし」の理念のもと、組合員との絆を大切に、地域や行政・諸団体、メーカー・生産者と連携し、これまでもSDGsに関わる諸課題に取り組んできました。
 SDGsの達成目標は、これまで生協が大切に、取り組んできた活動や事業そのものといえます。
 「2030年理念・ビジョン」のもと、「コープみえSDGs行動宣言」をすすめるとともに、私たち組合員が希求する理念とビジョンの達成をめざし、2030年に向けて引き続き協同の力で持続可能な開発目標 (SDGs) の実現に貢献していきます。



SDGsとは

SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ (行動計画)」に記載された、国際的な取り組み目標である「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」の略です。持続可能な世界を創出するために、2030年までに全ての国や地域で取り組むべき17の目標とそれを達成するための169の具体的な取り組み内容、取り組みの成果を計るための232の指標で構成されています。

2030年到達目標 (めざすもの)

SDGs を実現するための7つの取り組み	おもな到達目標 (めざすもの)
① 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます	・地元産商品の取り扱いが増え、県内企業及び生産者と連携した取り組みの展開 ・地元商品の利用点数
② 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します	・CO ₂ 総排出量 = 802t 以下 60%削減 (2013年比)
③ 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します	・フードバンクなどへの提供数 ・食品廃棄量の重量と金額
④ 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します	・日本が核兵器禁止条約に批准 ・平和についての署名数・募金額
⑤ 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します	・組合員数 28万人 ・災害協定 全 29 市町
⑥ 健康づくりの取り組みをひろげ、福祉事業・助け合い活動をすすめます	・健康情報の提供数 ・食育の情報提供数、学びと体験の場づくりの数
⑦ ジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します	・障がい者雇用率 6.1% ・女性職員比率 30% 以上 ・女性管理職比率 20%

職員からのSDGsへの想い

職員のSDGsへの理解が少しずつすすんできました。日頃感じている

SDGsへの想いを聞いてみました。



人づくり推進課 西田 風沙

日本は豊かな国ですが、世界には貧困が原因で食料が十分に入らない国が数多くあります。募金などの活動を通じて、支援の取り組みを絶やさないことが重要だと思います。



みやがわ店 高敷 玲緒奈

商品の購入時は、食品廃棄ロスを考えて日付の古いほうから手に取るようにしています。



紀北センター 山口 巧真

趣味の海釣りに行くと、海岸には信じられないほど大量のゴミが廃棄されています。海の環境を守るためにはまずはゴミを拾ってから釣りをするようにしています。



津宅配センター 葛西 秀子

ペットボトルの使用量を削減するため、2ℓのお茶を買っておいて、水筒へ小分けしています。環境にやさしいうえに、支出も抑えられるので経済的です。



伊勢センター 東端 日菜

中高の保健体育教員免許を持っています。どこでくらしにしても、平等な教育の場が提供されることを願っています。



伊賀センター 北畠 美香

ふだんからこまめに電気を消したり、コンセントを元から抜いたりして電気の使用を節約しています。



組織活動推進課 くらしの相談窓口 山田 喜弘

ご高齢な組合員から多くの相談が寄せられています。各配送センターの地域職員や行政機関とも連携して、困りごとや悩みを抱えておられる方を早く支援につなげ、ストレスや不安を軽減できればと思っています。



東海コープ 日配・冷蔵商品部 岸 玲司

宅配はとても効率的なしくみで商品をお届けできていると思います。在庫が多い商品や賞味期限が近い商品はe-フレンズなどで積極的に企画し、食品ロスの削減に取り組みたいです。

職員2～3年目研修でSDGsの学習会を開催

組合員への貢献をめざし、職員の発想力や企画力を伸ばす目的で開催され、コープみえの重点課題であるSDGsについて学び直しました。新聞記事などから身近な社会課題を発見し、課題解決に向けての考える力、地域活性化に向けての発想力を育みました。



コープみえ20周年フェスタ SDGsコーナーでの来場者の願い

コープみえ20周年フェスタで、短冊に書かれた願いを一部ご紹介します。

- ・安心して暮らし続けられるよう、地域の人たちとつながりを増やす。(50代)
- ・買った食材はきちんとつくって使い切ります!! (30代)
- ・発展途上国の子どもたちが元気に勉強できるように。(10代)
- ・お風呂などで使う水などをせつやくする。(10歳未満)
- ・食べ物を残さず食べる。つくりすぎない!(40代)
- ・べんりさをもとめすぎて自然をこわすのはやめよう。(10歳未満)
- ・ゴミは海にすてない! ゴミひろいをする。(10代)
- ・戦争が終わりますように。(50代)



社会福祉協議会と連携した地域づくり

地域共生社会の実現をめざして「桑名福祉ヴィレッジ」が誕生

2022年4月、まちづくりや人づくりの拠点として、桑名市に多世代共生施設「桑名福祉ヴィレッジ」が誕生しました。「桑名福祉ヴィレッジ」は、養護老人ホームや児童発達支援事業所、母子生活支援施設、生活介護事業所、保育園など分野を超えた8つの福祉施設などが1カ所に集まり、全国でも初めてといわれる福祉サービスを一体化させた施設です。

施設内の「らいむショップ」で生協商品を供給

その施設内に桑名市社会福祉協議会が運営する施設「らいむショップ」がオープンしました。「らいむショップ」は、地域の方と一緒に地域のコミュニティの再形成やお買い物支援等をすすめることを目的に、コープみえが桑名市社会福祉協議会と連携協定を締結し、三重県より員外利用許可を受けて商品の供給を行っています。また、らいむショップに併設された交流館には、施設を利用する人や地域の方だけでなく、誰もが集える交流スペースもあります。

「地域共生社会の推進に関する連携協定」を締結

「桑名福祉ヴィレッジ」の誕生に合わせて、桑名市社会福祉協議会とコープみえでは「地域共生社会の実現に関する連携協定」を締結しました。生活困窮者自立支援・子育て支援・高齢者支援・障がい者支援に関わり協力して取り組んでいくこととして、連携をすすめています。

地域共生社会の推進に関する連携協定締結 地域一覧

- ・桑名市（社会福祉協議会）
- ・伊賀市
- ・名張市



これからも地域のみなさんと コープみえ桑名センター職員 渡辺 昌子
 桑名福祉ヴィレッジは、この地域のつながりがうすれている中で、再び地域の人々がつながって、安心して暮らし続けられるようにとの願いによって、コープみえにお声がかかりました。たくさんの課題もありましたが、さまざまな方々との相談を重ね、実現しました。今後も担当地域のみなさんの暮らしに貢献できるよう、取り組んでいきます。



コープみえでは、各地域の社会福祉協議会と連携して暮らしの向上と安心して住み続けられるまちづくりをめざす活動をすすめています。桑名市での取り組みをご紹介します。

「らいむショップ」でのフードドライブの取り組み

生活困窮者自立支援などの地域のささえあいとあわせて、食品ロス（家庭内の食品在庫）削減を推進し、安心して住み続けられる地域づくりをめざして、「らいむショップ」でのフードドライブにも取り組んでいます。地域のみなさんに食品の寄付を呼び掛け、「らいむショップ」までお持ちいただきます。寄せられた食品は、コープみえの組合員活動として参加している地域サポーターが商品の点検、仕分け作業を行い、仕分け後は桑名市社会福祉協議会より生活困窮者へお渡ししています。



<地域サポーターの声>

- ・フードドライブにたくさんの品が集まってびっくりしました。困っている方のお役に立てればと思います。
- ・コープみえのチラシでフードドライブの活動を知りサポーターに応募しました。このような活動は初めてで少し戸惑いましたが、楽しく活動ができました。



フードドライブとは

家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている地域のフードバンク等の生活困窮者支援団体、子ども食堂、福祉施設等に寄付する活動のことです。

フードドライブのしくみ



各地の社会福祉協議会と「生活困窮者自立支援事業の連携に関する協定」を締結

この協定は、社会福祉協議会が実施する「生活困窮者自立支援事業」の推進を図るため、コープみえで保有する余剰商品や賞味期限が短くなった防災支援物資を提供することにより、食品等の有効活用を実現するとともに、地域福祉に寄与することを目的としています。

締結先一覧

- ・津市社会福祉協議会
- ・鈴鹿市社会福祉協議会
- ・伊賀市社会福祉協議会
- ・尾鷲市社会福祉協議会
- ・松阪市社会福祉協議会
- ・明和町社会福祉協議会
- ・玉城町社会福祉協議会
- ・菟野町社会福祉協議会
- ・伊勢市社会福祉協議会
- ・四日市市社会福祉協議会
- ・名張市社会福祉協議会
- ・鳥羽市社会福祉協議会
- ・多気町社会福祉協議会
- ・大台町社会福祉協議会
- ・いなべ市社会福祉協議会
- ・亀山市社会福祉協議会

1 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直す活動



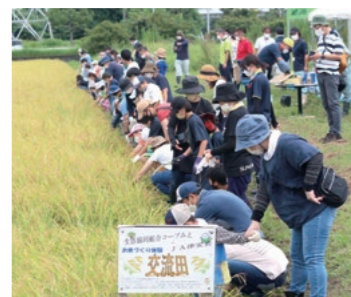
メーカー、生産者とのパートナーシップ 地産地消

<産地交流会を各地で開催>

産地交流会は、産地との交流を通じて商品を選び、つくり手の想いや苦勞、生産者の努力によって食が支えられていることを実感し、商品普及につなげていく取り組みです。

●お米づくり体験「田植体験」「収穫体験」

お米づくりの大切さ、産地米のおいしさを親子で体感する「お米づくり体験」がJA津安芸とJAいがふるさとの協力ののもと、それぞれの交流田で毎年、行われています。田植えでは、県内各地から親子が参加し、どろんこになりながら一生懸命に苗を植えました。また、収穫体験では初めて鎌を使うお子さんもあり、お米を収穫しました。



参加者の感想

自分たちが食べているお米についてどのように育つか、育った喜びも知ることができました。



●JA伊勢三重南紀みかん産地交流会

紀北センター商品活動をすすめる会の組合員と御浜町にあるJA伊勢を訪問し、産地交流会を実施しました。



●林さんのいちごの生産者交流会

年々組合員からの支持が高まっているいちご（章姫）の生産者である大台町の林さんを訪問し、生産者交流会を開催しました。



いちご生産者 林 勝一さん

大変なことも多いですが、自分自身が食べて本当においしいと思えるいちごづくりにこだわり、組合員みなさんに喜んで食べてもらえるよう努力しています。



<「コープの森づくり」植樹資金の寄付>

「コープの森づくり」は、海の生き物と、それを育む森を守る活動を東海コープですすめる取り組みです。沖縄・恩納村の里海づくりや北海道・野付漁協のお魚を増やす植樹活動、インドネシア・マングローブの森づくりでは組合員の関連商品の利用によって、1点あたり1円の植樹資金を寄付しています。

恩納村漁協	サンゴ植樹資金	192,615円
野付漁協	お魚を増やす植樹資金	146,685円
MMA	マングローブ植樹資金	63,833円
合計		403,133円



エシカル消費

地域や社会、環境や人々に配慮して、モノやサービスを買うエシカル消費。コープみえでは、コープ商品を通して組合員が誰かの笑顔につながるエシカルな買い物の考え方を知って、利用できる機会をひろげています。

<組合員による商品づくり活動>

三重県産の食材や素材に目を向けて、各地域の商品活動をすすめる会の組合員が生産者やメーカーと協力して商品の開発や見直しに取り組んでいます。

●はぐくみ自慢の豚で作ったミルフィーユカツ「紀北センター商品活動をすすめる会」

はぐくみ自慢の豚肉を、幅ひろい世代に食べてほしいという願いから、少量の油でフライパン調理が可能なやわらかいトンカツを開発しました。



●地元の名産である榊原温泉の成分配合の2in1 ミルキーローション「津南センター商品活動をすすめる会」

多忙な30代をはじめとした全世代の方に、手軽に簡単に肌をお手入れしてもらいたいとの想いで地元の名産である榊原温泉の成分の配合にこだわった2in1 ミルキーローションを開発しました。



はぐくみ自慢とは

生産者の優れた取り組みや努力を客観的に評価して認められた商品で、生産者と交流できる「顔が見える」畜産物です。

<コープサステナブルシリーズ>

主原料にサステナブル（持続可能）な原料を使用した商品を「コープサステナブルシリーズ」としてお知らせし、普及活動を行っています。



<アンゴラの学校づくりを支援するコアノンスマイルスクールプロジェクト>

コアノンシリーズ1パック購入につき1円が、ユニセフを通じてアフリカのアンゴラ共和国に寄付され、子どもたちが楽しく学べる環境づくりに使われています。



キャンペーン寄付額

第12期 (2021年11月1日～2022年10月31日)	14,314,320円
2010年～累計	143,122,778円

2 地球温暖化対策の推進、再生可能エネルギーの利用・普及活動



コープみえでは環境政策に基づく省エネ対策や、CO₂ 排出量の削減、廃棄物の削減など環境負荷の軽減に取り組み、環境に配慮した商品の普及をすすめています。コープみえの取り組みと組合員の活動を通じて、生物多様性の保全と地球温暖化の防止に努め、持続可能な社会づくりをめざしています。

環境保全活動

<高洲海岸と白塚海岸で清掃ボランティア>

高洲海岸の清掃活動では配送センターの職員が参加し、ウミガメの生態や保護活動等、環境を守る取り組みについても学びました。

白塚海岸の清掃活動には、職員がボランティア参加し、海岸の流木やゴミ拾いを行いました。



<くらしあんしん講座「ふろしきを活用しよう！～海洋プラスチック問題を考える～」>

三重県環境学習情報センターの坂崎由佳氏を講師に、海洋プラスチック問題について考え、ふろしきの活用方法を学ぶ講座が開催されました。ここ数十年ほどで急激にプラスチック製品が普及しましたが、小さくなったマイクロプラスチックが鳥や魚などに悪影響を与えていることを学びました。またいろいろなサイズのふろしきの活用方法を学び、環境を見直すことができました。

参加者の感想

普段はあまり馴染みのなかったふろしきでいろいろな包み方を知ることができて、子どもと一緒に包んで環境のことを考えてみるきっかけにしたいです。



<「生ごみを有機肥料にかえる！」講座を開催>

松阪センター エリアコーディネーター企画の講座を開催しました。

松阪ダンボールコンポストの会のみなさんに廃棄ゴミの問題点や、ダンボールコンポスト法での生ごみ堆肥のつくり方を学びました。



<エコ川柳>

エコ川柳は、家庭や身近な場所で環境保全活動をすすめるエコファミリーメンバーの組合員から寄せられました。

- ・寒い夜の 強い味方は 湯タンポさん
- ・エアコンの 1温下げて 重ね着し
- ・スイッチオフ 便座のカバー 厚くして
- ・一部屋で 家族揃って 皆スマホ
- ・ママ友と 子の服貸し借り 大助かり
- ・使用量 減っているのに 額激増！
- ・節約は 慣れてしまえば 快適だ



地球温暖化防止活動

<ISOの取り組み(EMS、QMSの活動)>

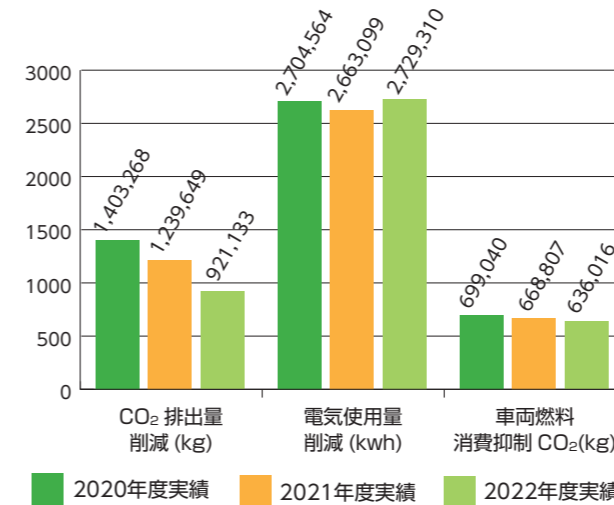
ISOの取り組みをすすめ、CO₂ 排出量等の削減やリサイクル、廃棄物削減を行っています。

●環境活動パフォーマンス報告、品質活動の報告

コープみえは、ISO14001 規格にもとづき環境負荷低減の取り組みを行っています。

また、組合員や地域・諸団体とともに、生物多様性保全、地球温暖化防止に向けた環境活動をすすめています。日常的な省エネ活動や、夏場のエコスタイル、室温の温度管理、ノー残業デーやライトダウンの実施に取り組みました。

CO₂ 排出量削減に向けた環境負荷低減の取り組み



コープみえでは2030年CO₂ 排出量 60%削減(2013年度比)を目標に取り組んでいます。

<リサイクルを促進するエコセンター>

エコセンターは、2016年に稼働し、コープぎふ・コープあいち・コープみえと東海コープで、循環型環境社会の実現への貢献をめざしリサイクルを推進しています。

配送センターで回収している使用済みの商品案内やたまごパックを集積・圧縮して、環境資源として出荷しています。



	2019年	2020年	2021年	2022年
商品案内書の回収	2,147t	2,014t	2,029t	2,085t
内袋の回収	34t	37t	35t	32t



<EV業務車両導入>

2022年度は本部と四日市センターの業務車両2台を電気自動車へ切り替えました。2030年までに業務車両の半数をEV化することをめざしています。



<環境活動寄付金贈呈>

2022年度環境活動寄付金贈呈式・環境活動団体交流会を開催しました。地域の環境に関わる団体の活動を応援し、地域の環境活動団体の活動やひろがり、つながりづくりのきっかけになることをめざして、環境活動寄付金をお贈りしています。



団体名	寄付額
いなべ自然楽校	100,000円
いなべの里山を守る会	21,000円
特定非営利活動法人 竜の森林	50,000円
環境学習サークルみえ	100,000円
ウミガメネットワーク 三重	100,000円
魚とこどものネットワーク	70,368円
松阪ダンボールコンポストの会	29,800円
名張市立薦原小学校	100,000円
社会福祉法人山際福祉会 たけのこ保育園	100,000円

3 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動の推進



<食品ロス削減キャンペーンに参加>

みんなで楽しみながら食品ロスを減らす取り組みとして、伊勢市が市内のスーパー等と協力し実施する「すぐ食べるならつれてって！キャンペーン」が今年も開催され、みやがわ店もキャンペーンに参加し、みんなでおいしく楽しみながら食品ロスの削減に取り組みました。

キャンペーン概要

消費期限や賞味期限が近くなった割引された商品の値引きシールを集めて応募すると、抽選で賞品が当たるというもの。今年もたくさんの参加と応募がありました。



<ユニセフ「ウクライナ緊急募金」報告>

武力紛争が激化するウクライナの子どもたちへの支援のため、コープみえではユニセフ「ウクライナ緊急募金」の呼びかけを行いました。



©UNICEF/UN0689612/Gilbertson Highway Child

ウクライナ緊急募金総合計金額(累計) 11,221,180 円

2022 年度募金および換金総額

ユニセフ一般募金 (2023 年 2 月 20 日現在) 1,319,324 円

<ハンガー・フリー・ワールド>

組合員から書き損じハガキや使用済みの切手等を回収し、換金して、飢餓のない世界をめざして活動しています。

ハンガーフリーワールド換金額 5,092,050 円

4 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動の推進



<国民平和大行進、ハート平和行進に参加>

平和と核兵器廃絶を訴え、元気に歩いてゴールの広島県に平和のバトンをつないでいます。ハート平和行進では日本在住の山本ハリナさん、柏谷オーリヤさんよりウクライナからのメッセージをいただきました。



<「第五福竜丸から学ぶ平和～想いをつなごう～」企画を開催>

この企画は伊勢と関わりが深い第五福竜丸を子どもたちが牛乳パックでつくり、工作をしながら平和について学びました。



<コープみえ 20 周年記念企画 平和コンサート>

シンガーソングライター清水まなぶ氏による平和コンサートを開催しました。清水まなぶ氏は、祖父が戦時中に書いた手記を見たことをきっかけに戦争体験者の声を歌と語りで伝える活動を行っています。



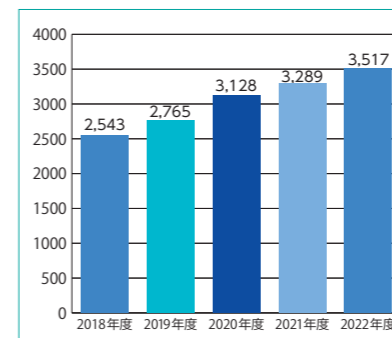
5 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりへの参加



地域の見守り活動

<夕食宅配での見守り>

コープみえの宅配や夕食宅配のお届けが定曜日と同じ職員が対応することを活かした見守り活動を実施しています。夕食宅配では、前日のお弁当が未開封で残っていた場合に、事前に登録した連絡先に毎月 70 件ほど連絡しています。



夕食宅配数数の推移 (1日あたり食数)

配達エリアカバー率 93.6%

緊急連絡先登録率 29.6%

※対象は美利用者

<消費者被害防止の啓発活動>

伊賀エリア会では消費者被害防止の啓発に力を入れており、人形劇(ペープサート)でわかりやすく表現し、防止対策を参加者へ呼び掛けています。



<職員が認知症サポーター養成講座を受講>

配達時に組合員の異変を感じた際は、地域と連携して対応にあたっています。認知症サポーター養成講座では、認知症の影響による注文間違いの際の確認方法など、配達時の組合員への気づきと対応、地域と一緒に見守りをすすめる流れを学んでいます。



職員の声

これまで組合員から名前と呼ばれていましたが、突然「あなた誰!? 宅配の人?」と言われました。認知症だとわかっていても、寂しくなります。組合員の状況等を注視し、対応できるようになればと思います。

見守り事例紹介

お届け時に倒れている組合員を発見し、対応しました



スマイルサービスみえ 伊賀センター 配達員

大東 美恵子

お届け時に玄関内で倒れている組合員を発見しました。意識はあり会話はできましたが身動きが取れない状況でした。「救急車を呼びましょうか」と聞かれましたが、近所の目もあるので不要とのことで、息子に電話してほしいと頼まれました。息子さんに電話した所、直ぐに駆けつけるとの返事があり、その後の対応は息子さんに依頼しました。

<各地ですすむ見守り協定>

配達等の訪問先で高齢者、障がい者、子ども及び子育て家庭に異変を察知した場合に、連絡等の必要な対応を行う協定です。



地域見守り 高齢者等の見守りと支援に関する協定

協定締結市町一覧

- ・四日市市 ・度会町 ・津市 ・東員町 ・名張市
- ・明和町 ・松阪市 ・伊勢市 ・桑名市 ・鈴鹿市
- ・亀山市 ・尾鷲市 ・多気町 ・熊野市 ・大台町
- ・木曾岬町 ・朝日町 ・南伊勢町 ・紀宝町 ・玉城町
- ・紀北町 ・川越町 ・大紀町 ・御浜町

高齢者見守り協定以外のネットワーク登録

- ・いなべ市…高齢者等の見守りネットワーク登録
- ・伊賀市…高齢者あんしん見守りネットワーク登録
- ・鳥羽市…あんしん見守りネットワーク登録
- ・木曾岬町…高齢者見守りネットワーク事業協定
- ・御浜町…徘徊 SOS ネットワーク登録
- ・志摩市…あんしん見守りネットワーク登録
- ・尾鷲市…高齢者等 SOS ネットワーク事業

5 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりへの参加



くらしの安心活動

<買い物が不便な離島のみなさんを離島便で支援>

伊勢センターは県内で唯一離島への配達に対応しています。答志島・菅島・神島に鳥羽市営定期船で商品をお届けしています。

配送センターで組合員ごとの商品をあらかじめ仕分けし、トラックで港に運び、船に積み込み出航。港に到着し、組合員のみなさんに商品をお渡ししています。

菅島在住の組合員の声

菅島には商店が1店舗だけになってしまったので、食料品等を購入する手段が他に確保できて安心です。船で買いに出なくても買い物ができて助かっています。



災害支援

熊野市と津市の総合防災訓練に参加しました。支援物資を宅配トラックで運ぶ訓練や避難所への搬送と集積の流れ等を確認しました。



コープみえは、県内各地域と「災害時における支援協力に関する協定書」を締結しています。



災害時における物資供給 及び物資配送に関する協定締結市町一覧

- ・桑名市 ・津市 ・鈴鹿市 ・松阪市
- ・尾鷲市 ・名張市 ・伊賀市 ・いなべ市
- ・川越町 ・鳥羽市 ・熊野市
- ・鈴鹿市（災害ボランティアセンターの設置運営に係る協力体制に関する協定）
- ・四日市市 ・伊勢市 ・志摩市 ・度会町
- ・朝日町

安全運転の取り組み

<子どもを事故から守る交通安全教室開催>

大切な子どもたちの笑顔を交通事故から守りたい…という想いから、美里さつき保育園にて交通安全教室を開催しました。コロナ禍の影響で3年ぶりの開催になりましたが、安全運転と地域の安全に貢献できるよう、この取り組みを継続しています。



園児の感想

横断歩道の渡り方が楽しかったです。車に気をつけたいです。

プロジェクトリーダー
津宅配センター
大西 涼太



来年新1年生となる園児が交通ルールを正しく守り、安全に小学校へ登下校ができることを願って実施しました。各地域の保育園で交通安全教室が開催できるよう、検討をすすめていきます。

交通事故発生推移表

年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
発生件数	89件	63件	53件	74件

6 健康づくりの取り組みをひろげ、福祉事業・助け合い活動を推進



<福祉活動寄付金贈呈式&交流会を開催>

福祉活動寄付金は、福祉に関する取り組みをすすめる団体や障がい者施設、福祉施設などを応援する取り組みで、今年度は9団体に寄付金を贈呈しました。

2018年度～2022年度 寄付額

34団体	2,480,000円
------	------------



2022年度福祉活動寄付金贈呈団体のみなさん

- ・一般社団法人子ども子育て・教育研究所（四日市市）
- ・特定非営利活動法人 下野・活き域ネット（四日市市）
- ・NPO法人 四日市まんなかこどもステーション（四日市市）
- ・特定非営利活動法人 風の家（四日市市）
- ・アーナンダ（松阪市）
- ・子育て広場 ドロップ in（四日市市）
- ・三重言友会（四日市市）
- ・特定非営利活動法人 希望の園（松阪市）
- ・心の森 ボランティアサークル（鈴鹿市）

<認知症予防講座「脳いきいき教室」開催>

福祉サービスセンター松阪で、脳いきいきインストラクターを講師にお招きし、認知症予防講座「脳いきいき教室」を開催しました。

講座では認知症の種類や発症に至るメカニズムについて学んだり、脳いきいき体操やゲームを体験したりしました。



参加者の感想

認知症は年齢に関係なく、早めに知識を身に付けることが必要だと感じました。ふだんの生活に取り入れて周囲にひろめたいです。

<くらしたすけあいの会>

困った時はおたがいさまの精神で、組合員が行う有償の福祉活動です。

コロナ禍のなかで一時活動を休止した時期もありましたが、高齢の方や障がいのある方、産前産後や子育て家庭、病気やケガでお困りの方などへ掃除、洗濯、買い物、食事づくり、話し相手、ご家庭での託児などを行いました。



<商品検査センターの取り組み>

東海コープ商品検査センターでは、組合員からの出資金をもとに検査体制と検査設備、検査項目の充実を図っています。

生協で企画している商品の微生物や残留農薬、食品添加物、放射性物質などの検査を実施し、安全品質を確保する取り組みをすすめています。

2022年度の検査（2022年3月21日～2023年3月20日報告）

検査名	実施数	適合率
微生物検査	10,062件	92%
残留農薬検査	525件	99%
食品添加物	198件	100%
放射性物質検査	74件	検出された事例はありませんでした。



商品検査センターでは食の安全安心、食と健康に関わる情報を提供しています。ウェブサイトをご覧ください。



7 ジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会づくりの推進



誰もが働きやすく、イキイキと働ける職場づくり

<女性キャリアデザイン研修>

女性職員を対象としたキャリアデザイン研修を実施しました。研修を通して、キャリアに対する理解を深め、自律的なキャリア形成について意識を高める機会となりました。

参加者の感想

研修では「経験を通してしか人は成長できない」ということを学びました。これまでの経験も肯定的に捉え、チャレンジ意欲を持っていきたいです。



<子育て支援事業「ファザー・オブ・ザ・イヤール in みえ」のサポーター協力>

子育てには男性の参画が大切という考え方がひろがるように、男性の子育てに関する写真を募集し、みんなで共有する三重県の取り組みにサポーター協力しました。



<自主的活動支援制度を活用し、棒高跳び選手として活躍>

コープみえでは自主的活動支援制度を活用し、業務外でさまざまな活動が行われています。職員の中村郁羽さんはこの制度を活用して、コープみえの棒高跳び選手として活躍しています。



育児休業取得した職員の感想

山下 穂高

第1子の時は3日間だった育児休業を、第2子の今回は18日間取得しました。職場に相談した際にも「休業中の業務は任せてください」と心強い言葉もあり、職場のサポートにも感謝しました。



職員の感想

中村 郁羽

全日本実業団大会の標準記録を切るために真剣に練習に取り組み、結果を残したいです。



自主的活動支援制度とは

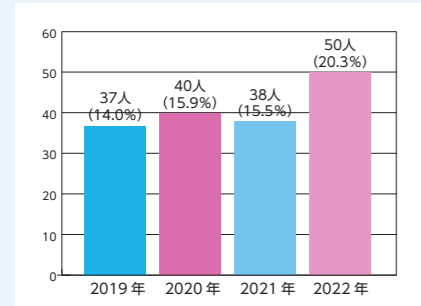
コープみえの職員として、自らの成長や組織の発展をすすめる意思を持った業務外の自主的な活動を支援する制度です。

育児休業および育児目的休暇（出生休暇）の取得率

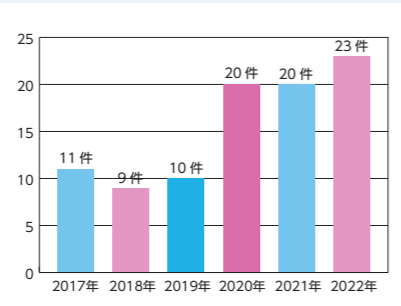
年度/性別	男性	女性
2019年度	80%	100%
2020年度	100%	100%
2021年度	100%	100%
2022年度	100%	100%

女性職員比率、労災事故発生件数、障がい者雇用率推移グラフ

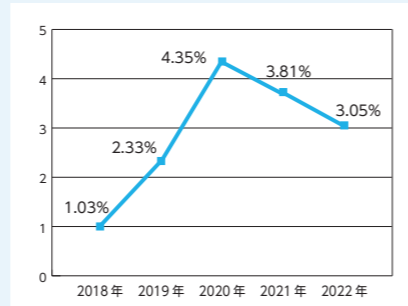
女性職員比率の推移(ゼネラル・エリア職員)



労災事故発生件数の推移



障がい者雇用率の推移



※ 6月提出「障害者雇用状況報告書」より

コープみえの内部統制システム・第三者評価

内部統制システム

コープみえの機関運営と組織、内部統制・マネジメントの取り組み
コープみえは、生協法をはじめ関係法令及び定款等に則った機関運営や業務執行の強化に努めています。

機関運営と組織

最高決定機関である総代会での決定にもとづき理事会、常務理事会で日常執行がすすめられています。理事会の執行を監事会が監査し、決算会計については、監査法人による外部監査を実施しています。

内部統制活動

2022年度内部統制システム推進の基本方針にもとづき、内部統制活動をすすめてきました。

基本方針	2022年度の主な取り組み
1. 理事及び職員の職務の執行が、法令及び定款などに適合していくための体制を整備し、取り組みをすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> 法令等の制定、改正の情報収集や遵守監視・確認を毎月開催される内部統制推進委員会で共有してきました。 職員ハンドブックを全職員に配布し、周知・徹底をはかりました。 コンプライアンス及びハラスメントの管理者研修会を実施しました。またウェブによる意識調査アンケートを実施し、各職場で調査結果の共有とまとめを実施しました。 通報・相談窓口の周知と対応をすすめ、ハラスメントの内部・外部の相談窓口に8件、コンプライアンスの相談窓口に2件の相談がありました。
2. 生協の事業及び財務の状況の情報開示、理事の職務執行に関わる情報管理を適切に行う体制を整備し実行していく。	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護、機密情報管理の一般学習会を実施しました。 個人情報、機密情報の台帳メンテナンスや事故発生の監視と対応をすすめました。 パソコン管理基準にもとづくセルフチェック等を実施しました。
3. 事業の遂行の障害や損失の要因となる「リスク」を管理し、損失予防や緊急事態に備える体制を整備し、実行していく。	<ul style="list-style-type: none"> 重要リスク評価と重点リスクの特定と対応計画を作成し、内部統制推進委員会で確認してきました。 管理者対象にリスクマネジメント研修会を開催しました。 事故・ヒヤリハットの事例の集約と予兆への予防対策を実施しました。 災害マニュアル、避難マニュアルの整備やMCA無線、緊急時の連絡網の訓練等が実施されました。
4. 理事及び職員の業務の執行が効率的に行われるしくみや体制を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度の体制変更に伴い、規程集の更新、整備をすすめ、ウェブでの閲覧を実施しました。 内部統制に関するセルフチェックを実施しました。 ISO9001の運用のなかで、業務フローの見直しや業務改善等をすすめました。 統合された内部統制の内部監査とMS内部監査を、全部署で実施しました。
5. コープみえの関連する会社等における業務の適正を確保する体制を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社管理規程にもとづき、関連会社となる(株)スマイルサービスみえの総会への参加や対応をすすめました。
6. 監事監査及び監査業務が実効的に行われる環境を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> 監事会と代表理事の定期懇談や経営組織監査を実施しました。

<サステナビリティレポート第三者意見>

「2030年理念・ビジョン」を掲げ、行動宣言に沿って具体的な到達目標が設定されたことで、SDGsの達成に向けてコープみえが取り組む方向性がより明確に伝わるようになりました。ただ食品廃棄量はベースラインの設定と合わせて具体的な目標がほしいところです。2030年を見据えた各取り組みは、SDGsの17の目標達成に向けた多様なアプローチが示され、ビジョンに沿ったSDGsの推進力が伝わります。

特に「特集」は、くらしや地域の課題に取り組んできた生活協同組合らしい取り組みであり、地域社会からの評価も高いと感じました。地域福祉を支える社会福祉協議会は、地域課題やニーズと直結し、そこにコープみえの2030年ビジョンが合致して連携を生んだ取り組みとなっているからです。アフターコロナの不確実性の高い時代において、社会課題が複雑化する中、それぞれの強みを活かした相

乗効果を生む連携が課題解決には不可欠です。また商品をお客様だけでなく、フードドライブの窓口を兼ねるなど、複数の役割を組み合わせることで、コープみえが目指す基本理念にもつながっています。

地域の見守り活動も本業の宅配業務と組み合わせたコープみえならではの活動です。高齢化が進む地域では独居や高齢者世帯の増加が地域課題となっています。行政との見守り協定の締結など、社会的信用を高めながら進めている点も評価できます。

SDGsのゴールである2030年の目標達成を目指し、ステークホルダーへの達成度の報告などのコミュニケーションを通じて、さらなる社会的評価の向上を期待しています。

CSR 検定合格者・第三者意見検討委員会/事務局: NPO 法人 Mブリッジ(石丸)